

令和5年度第2回  
高知県医療審議会 医療従事者確保推進部会 審議概要

日時：令和5年8月16日（水）18時30分～20時00分  
場所：高知県庁2階第二応接室  
出席：委員12名（船井部会長、藤原副会長、小野委員、楠瀬委員、倉本委員、  
甲田委員、野村委員、花崎委員、深田委員、脇口委員）  
代理出席 近森病院 浅羽総合内科部長  
説明者 高知医療センター 五石主任医長

## 1 開会

## 2 協議事項

### (1) 専門研修プログラムについて

資料1-1、1-2、1-3により事務局から説明。

花崎委員、小野委員、浅羽総合内科部長から県内の専門研修プログラムについて補足説明。

#### <県内の専門研修プログラムについて>

倉本委員：資料1-1の近森病院の連携施設として県内では梶原病院が特別連携施設となり、その他宮崎県や都市圏の医療機関が追加されている。もともと近森病院は地域枠医師が義務を果たす県内の連携施設が少ない状況で、今回新たに都市圏の連携施設が追加され、県内と都市圏とで連携施設数のバランスが気になった。その上で、宮崎県の施設がさらに追加されたことについて、説明していただきたい。

浅羽総合内科部長：連携施設に関しては、川井院長のパーソナルコミュニケーションとして、循環器学会を通じて相手側（県外連携施設）から受入をしてほしいと申し入れがあった。そういった形で県外の連携施設が増えている。受入を専門とし、近森病院所属の医師が相手側（県外連携施設）へ行くことはない。

#### <専門研修に関する国への意見について>

花崎委員：自治医科大学について、以前、嶺北中央病院にいた自治医科大学卒業医師が規定どおりの配置調整に応じなかったことがあったと聞いている。県ではそういったことを把握しているか。

事務局：義務年限内の自治医科大学卒業医師の配置調整は県にて行っているため、そういったことについても把握している。

※ 県内の専門研修プログラムについては、変更なしで了承された。

※ 専門研修に関する国への意見について、事務局案を提出することで了承された。

### (2) キャリア形成プログラムについて

資料2により脇口委員、小野委員、五石主任医長から説明

#### <形成外科プログラムについて>

脇口委員：プログラムの内容について、という話ではない。前回までの当部会及び高知地域医療支援センターと五石先生の過去のメールのやり取りについて情報共有

させていただく。R3 年度に医療センターから県へ形成外科プログラムの相談があった際に大学と相談の上決定するように県から言われたと聞いている。前回の当部会では、2つの病院と交渉中と聞いたので、土佐市民病院と幡多けんみん病院に状況を聞いたところ、土佐市民病院は受け入れると回答しており、幡多けんみん病院は、受入はするが大学とも協議するよう依頼したとのことだった。しかし、実際には医療センターと大学で協議ができておらず、大学の形成外科の黒木先生からは宴席で話を聞いたが、正式な協議ができていないと聞いている。前回の当部会で大学と十分に協議するような話になったにも関わらず、十分な協議ができていないのが現状。

五石主任医長：大学の黒木先生との協議を依頼されたのは事実だが、各プログラムは独立した医療機関で作成するものと認識していたため、黒木先生の同意や了解は必要ないと考えた。

脇口委員：過去に複数回、当部会から大学とも協議するよう話があったのに、そうしなかったのは好ましくなかったと思う。また、大学の教授は派遣先の病院の経営面等への影響も加味し、プログラムを策定することもご理解いただきたい。これまでの五石先生のメールの内容が大学と協力関係を持とうという姿勢が薄いように感じた。

五石主任医長：R5 年 3 月に黒木先生にあき総合病院に医療センターの形成外科プログラムから医師を派遣させていただけないか等の相談をしたが断られ、医療センターの形成外科プログラムを受け入れてくれないという印象を持った。医療センターの形成外科プログラムで地域医療を支える医師を育てていただきたい。既に 1 名の研修医が当該プログラムに入りたいと言ってくれている。個人的には、県内に複数のプログラムがあることで、選択肢が増え、切磋琢磨しながら経験を積んでいけると思う。こういった点からも来年度の当該プログラムを承認いただきたい。

脇口委員：大学と切磋琢磨しながら、と言うのであればプログラム内に大学での研修を盛り込んでも良いと思う。

五石主任医長：大学と連携することを検討したが、指導医按分等の手続きが煩雑であるため、調整が困難と思った。また、医療センターの当該プログラム統括責任者（原田先生）や徳島大学の橋本先生、高知大学の黒木先生と千葉大学の先生と 4 名の先生方で協議をしなければならない。

倉本委員：原田先生があまり前に出られないのはどのようなご事情からか。

五石主任医長：事務手続きが煩雑なため、担当の私が実施している。原田先生には報告はしている。

倉本委員：それを了承した上で、2点質問がある。1点目は、当部会において承認されて正式なプログラムになるが、前回の当部会でも大学と協議するよう要望があったと思うが、この1ヶ月で何らかの協議はあったのか。2点目は、70万県民県で外科でも1プログラムでやっている。専門医機構も特に都道府県に複数プログラムを求めている専門領域で、既に県内にある形成外科の専門研修プログラムの2つ目のプログラムを作成する意義についてどうお考えかお答えいただきたい。

五石主任医長：1点目については、前回の当部会の後に開かれた宴席にて黒木先生に話をした。2点目について、外科系の臨床研修後の若い医師への指導形式は様々あり、大学によって異なるため、短いスパンで指導形式が変わることは若いうち

は避けた方が良いと考えている。専門医を取得してからは、大学プログラムと医療センタープログラムの登録者が合流し、切磋琢磨できると思う。

野村委員：前回の当部会で、第2回の会までにプログラムの内容を詰めるように提案させていただき、本日案を示していただいた。そんなに難しい話ではなく、当部会ですべきことは、臨床研修医に向けてきちんとしたキャリア形成プログラムを作成すること。時間の制約もあるため、この議論が長引くのであれば、当該議題を後に回す等していただきたい。

脇口委員：プログラムの内容について云々言っているわけではない。地域枠医師を育てていくために、お互いに協力する姿勢を見せていただきたいと言っている。

五石主任医長：高知大学と協力して高知県の地域医療のために医師を育てたいので、よろしく願います。

花崎委員：前回の当部会時点で、黒木先生から五石先生と原田先生と十分に話をしておらず、高知県の形成外科の発展にとって好ましいことではないと聞いていたので、よく協議していただくように依頼していた。ところが、協議していただけていなかったようで、残念に思う。真摯に対応いただきたい。

船井部会長：今日は、これ以上この場で話をしても答えが出ない。この件について、医療センターと大学とで早急に協議をしてください。

**※医療センターの形成外科プログラムの承認については、保留となった。**

その後、医療センターから形成外科プログラム登録申請の取下げの申し出があった。

### (3) 第8期高知県保健医療計画について

資料3-1、3-2、3-3により事務局から説明

脇口委員：医師少数県、医師多数県という定義はあまり意味がない。小児科については、どの程度の医師がいれば輪番が回るのか、定年を超えた医師が輪番に出てくださっている状況で、それほど業務の負担が大きい。夜勤ができる年齢はいくつか、医師の働き方改革との兼ね合いはどうするのか、といった様々な視点から現状を分析する必要がある。また、医師少数・多数といった定義について、国へ見直しを提言していくことが必要だと感じる。

事務局：現場の声を反映していくことが必要。医師の高齢化や診療科毎の特性等について、周産期医療や小児科の協議会等でもご意見をいただき計画を作成する予定。

野村委員：歯科も後継者不足で地域医療提供体制が崩れている。歯科医師も医科のように検討ができる場を設けて、しっかりと対策を取っていききたい。

浅羽総合内科部長：医師のシルバー人材センターがあれば良いと常々思っている。定年退職後に医師が地域に行けるような受け皿をつくってほしい。

倉本委員：高知医療再生機構の常勤として雇用されて、県内の病院に診療に行っていただき、地域医療に貢献いただいている医師が複数名いる。そういった取組もしているので、今後ぜひご利用いただきたい。

甲田委員：今年3月まで私が働いていた研究所では、医師の過重労働について議論していた。過重労働は診療科によって偏在が大きく、人数だけではなく働き方によって様々ある。解決策として勤務環境改善について国でも議論がされていた。働き方に関する提案についても取り入れていければ、本県の課題解決の一助に

なると思う。

船井部会長：国は人口割合を見て医師数を判断するので、納得いかない部分もある。今後、そういった点について、県から国へ提言して行ってほしい。

※ 協議事項（3）については承認された。